

病防第100号
令和2年7月31日

各関係機関の長 様
(農政担当)

岐阜県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表したので、指導上の参考にしてください。

記

令和2年度病害虫発生予察注意報第5号
(トマト灰色かび病)

令和2年度病害虫発生予察注意報第5号

令和2年7月31日
岐 阜 県

作物名 トマト (夏秋型栽培)
病害虫名 トマト灰色かび病 (*Botrytis cinerea*)

- 1 発生地域 中濃、東濃及び飛騨地域
- 2 発生時期 7月下旬以降
- 3 発生程度 多い
- 4 予報の根拠

(1) 7月上旬以降、葉先枯れや花がらなどの枯死部に本病による胞子の形成が多数認められる。

(2) 7月下旬の巡回調査では、ゴーストスポット^{注)}を含む発病果率は、中濃地域で4.1%、東濃地域で1.9%、飛騨地域で7.3%と平年より高く、7月上旬調査時と比べ増加している(表)。

注) 灰色かび病の胞子が果実表面に付着し生じる黄白色円形の中心点がある小斑点のこと。

(3) 向こう1か月の気象予報(7月23日発表)によると、降水量は多く、日照時間は平年並～少ないと見込まれており、曇雨天が続くと本病の発生に好適な条件となるため、発生が増加すると予想される。

5 防除上の注意事項

(1) 発病した部位(果実や葉、花がらや葉先枯れ)は伝染源となるため早急に取り除き、

ほ場外へ持ち出し処分する。

- (2) 果実に付着している花ガラや葉先枯れは、感染源となるため見つけ次第除去する。
- (3) 20℃前後の気温と90%以上の高湿度が続くと蔓延するため、わき芽かき等を適切に行い、通風をよくする。
- (4) 着色促進のためサイドビニール被覆を行うと、風通しが悪くなり、ハウス内の湿度が上がり、本病の発生が助長されるため、管理には十分注意する。
- (5) 葉かび病やすすかび病などの多発により葉が枯死すると、本病の発生源となるためこれらの病害についても適切に防除する。
- (6) 薬剤防除にあたっては、同一系統薬剤の連用は避け、系統の異なる薬剤でのローテーション防除に努める。
- (7) 農薬は、最新の登録情報 (http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm 農林水産消費安全技術センター) を参照し、適正に使用する。

表 令和2年度トマト灰色かび病発生状況調査結果

調査地点		発病果率(%)					
		7月上旬			7月下旬		
		発病果計	腐敗果	ゴースト果	発病果計	腐敗果	ゴースト果
中濃地域	郡上市	—	—	—	0	0	0
	白川町	0.5	0.5	0	8.2	0	8.2
	平均	0.5	0.5	0	4.1	0	4.1
東濃地域	中津川市①	0.3	0	0.3	0.2	0.2	0
	中津川市②	0	0	0	0	0	0
	恵那市	0.5	0.5	0	5.5	1.3	4.2
	平均	0.3	0.2	0.1	1.9	0.5	1.4
飛騨地域	高山市①	0.5	0.5	0	3.1	2.1	1.0
	高山市②	—	—	—	1.6	0	1.6
	高山市③	—	—	—	0	0	0
	下呂市①	0	0	0	10.7	1.1	9.6
	下呂市②	—	—	—	21.3	1.3	20.0
	平均	0.2	0.2	0	7.3	0.9	6.4
県 平均	0.3 (0.4)	0.2 (0.3)	0.1 (0.1)	5.1 (0.6)	0.6 (0.3)	4.5 (0.3)	

注) ピンポン球大の果実を調査
 発病果計は腐敗果とゴーストスポット果の合計値
 端数処理のため、計が合わないことがあります
 ()内の数値は過去10年の平年値